

道 徳 科 学 習 指 導 案

令和5年6月2日（金） 学習指導Ⅲ 第4学年1組（6年3組教室） 指導者 樋口 晃

【主 題】時間の使い方を自分で決める（内容項目A3「節度、節制」）『早起きは三文の徳』（光文書院）

考察	道徳的価値についての理解 (学習活動)	自己の生き方についての考え (学習活動)	道徳性（育成を目指す資質・能力） (道徳的判断力，道徳的心情，道徳的实践意欲と態度)
育成を 目指す 資質 能力	・時間の使い方を自分で決めて生活することには，よさがあるという道徳的価値理解，時間の使い方を自分で決めることは難しいという人間理解，時間の使い方を自分で決めることができたり，できなかったりする場合の感じ方や考え方は多様であるという他者理解をすること	・自己の生活経験を基に，時間の使い方を自分で決めて生活することのよさや難しさについて，友達や教師と話し合いながら自分事として考えること	・時間の使い方を自分で決めて生活をしていこうとする道徳的实践意欲と態度を身に付けること
子どもの 実態	・自分で身の回りを整理整頓することや，危険から身を守ることのよさ，よさに気付くつも，節度ある生活ができなかったり，自分勝手な行動をしてしまったりするという人間の弱さ，時間に対する感じ方や考え方が多様であることを学習している。	・自分で身の回りを整理整頓したり，身の回りの危険から身を守ったりすることのよさや節度ある生活の大切さについて，友達や教師と話し合いながら，自分事として考える学習をしている。	・自分で身の回りを整理整頓したり，危険から身を守ったりすることに関して，学習用具や着替えた体育着を整えてロッカーにしまおうとしたり，安全面に気を付けながら落ち着いた生活を送ろうとしたりしている。
価値	・時間の使い方を自分で決めて生活することは，大切なことである。なぜなら，それができないと，物事への取り組みがおろそかになってしまったり，自堕落な生活をしてしまったりするからである。時間の使い方を自分で決められない場面として，休み時間に友達との話に夢中になり，授業の準備ができていない場面や，テレビを見ていたりゲームをしていたりして夜更かしをしてしまう場面などがある。このように，学校生活でも，家庭生活でも，時間の使い方を自分で決めて生活ができないことがある。その中で，時間の使い方を自分で決めて生活ができると，自分が気持ちよく生活ができたり節度ある生活を送れたり，自分の心身を健全な状態にできる。また，節度ある生活が送れると，周りの人たちに迷惑をかけずに生活ができることにもつながり，自己肯定感や自己有用感が高まることも考えられる。そこで，4年生の子どもたちが，時間の使い方を自分で決めることのよさに着目して，時間の使い方を自分で決めることについて考えることで，時間の使い方を自分で決めて生活ができるようにしていこうとする道徳的实践意欲と態度を身に付けられる。		

・本教材は、時間の使い方を自分で決めていなかった主人公が、節度ある生活を経験し、就寝するタイミングを自分で決め、節度ある生活に充実感を感じる話である。主人公の、遊ぶことに夢中になり夜更かしをしてしまい、慌ただしい生活を送る姿と、就寝するタイミングを自分で決めたことにより、早寝、早起きができ、テスト勉強をするゆとりができたり、一日の見通しをもって落ち着いた生活を送れたりするようになった姿を比較し、自分で時間の使い方を決めて生活することについて問題意識をもてる。また、登場人物の心情や状況に着目したり、自己の経験と照らし合わせたりしながら課題を追究する中で、時間の使い方を自分で決めることで、自分が気持ちよく生活できたり、限られた時間を有効活用し節度ある生活を送れるようになったりするよさに気付ける。そして、自分で時間を決めて生活することについて自己の生き方と照らして考えられるようになる。

見方・考え方

自分で時間を決めて生活することのよさについて、自己との関わりで多面的・多角的に捉え、これからの自己の生き方について考えること。

今後の学習

5年「ひみつのトレーニング」で、自己の生活習慣を見直し、自分から心身の健康を維持増進して、活力ある生活を送れるようにすることについて考える学習へと発展していく。

他の教育活動
との関連

- ・自分で時間を決めて生活することについて
- 例：休み時間の使い方について
- 家庭での学習時間と自由な時間の使い方について
- 就寝時刻や起床時刻を決めることについて

本時の学習（Ⅰ／Ⅰ時間目）

ね ら い 時間の使い方を自分で決める理由について話し合う活動を通して、自分が気持ちよく生活できたり、時間を有効活用し節度ある生活を送れるようになったりするというよさに気づき、時間の使い方を自分で決めて生活しようとする道徳的実践的意欲と態度を養う。

評価の視点 時間の使い方を自分で決めて生活することについて、教材における登場人物の心情や状況、自己の生活経験を基に、多面的・多角的に考えたことを発言したり、記述したりしている。 <発言・タブレット>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 教材を読み、学習課題をつかむ。 ・ぼくは、時間の使い方を自分で決めていると思っていたけど、友達の話を知っていると、先生や親に言われて時間の使い方を決めていたな。 ・さくらさんは、寝る時間を自分で決めていたな。時間の使い方を自分で決めなくても生活ができない訳じゃないけど。どうして時間の使い方を自分で決めるのかな。 (課題意識)	○時間の使い方を自分で決めることに対する感じ方の違いに気付けるよう、「時間の使い方を自分で決めた生活の有無とその理由」について回答したアンケート結果を提示し、感じたことを問いかける。 ○教材の登場人物が、時間の使い方を自分で決めたことに気づき、時間の使い方を自分で決めることについて問題意識をもてるよう、教材を範読し、教材の登場人物が時間の使い方を自分で決めた場面の有無を問いかける。
学習課題：どうして、時間の使い方を自分で決めるのだろう	
2 学習課題の解決に向けて話し合う。 ・時間の使い方を自分で決める理由は、早寝早起きができて、規則正しい生活ができるからだと思うな。 ・アンケートでは友達と考え方が違っていただけ、普段はできないことができるから時間の使い方を自分で決めるって友達友達の考えは納得できるな。教科書のさくらさんも、朝にテスト勉強とかができていたね。 ・時間の使い方は絶対にいつも自分で決める必要はなさそうだよ。休みの日なら時間を気にしないでゲームをしたいよ。 ・ゲームをしたり漫画を読んだりするのを、なかなかやめられないときもあるだろうし、いつも時間を決めて生活するのは大変そうだな。時間を決めずにだらだらしたいときもあるよ。 ・でも、自分で時間を決めて生活できると、自分で遊びすぎることをなくせるし、親や先生からも褒められて、気持ちよく生活できそう。自分で時間の使い方を決めていないときってだらだらしている気がするな。 ・時間の使い方を自分で決めるのが難しいときもあると思うけど、決めなくていいってことではないよね。ちゃんと自分で決められた方がいいよね。	○時間の使い方を自分で決めることの理由を明確にできるよう、学習課題に対する考えをタブレットに記述するよう促す。 ○自己の生き方をより納得するものにしようとする意識を高められるよう、アンケートを基にした考え方の異なる3～4人のグループを編成し、互いの考えを話し合うよう促す。 ○時間の使い方を自分で決めることの要不要を考えられるよう、時間の使い方を自分で決めることの必要性和その理由を問いかける。 ○時間の使い方を自分で決めることの難しさに気付けるよう、時間の使い方をいつでも自分で決めることの可不可とその理由を問いかける。 ○時間の使い方を自分で決めることの大切さに気付けるよう、時間の使い方を自分で決めたときと、自分で決めなかったときの、自分の気持ちや行動の相違点について問いかける。 ○時間の使い方を自分で決めることのよさを明確にできるよう、時間の使い方を自分で決めることの是非を問いかける。
3 本時の学習の振り返りをする。 ・時間の使い方を自分で決めれば、周りに迷惑をかけなかったり気持ちよく生活できたりするだろうし、時間の使い方を自分で決めて生活していきたいな。 (課題を解決した意識)	○本時に学習したことを自己との関わりで考えられるよう、本時の導入で提示したアンケート結果を指差しながら、「学習課題に対する考え」と「これからの生活」という視点で自分の考えをタブレットに記述するよう促す。